

「神話の縁結び かみがたりネットワーク」を設立

「神話の縁結び かみがたりネットワーク」とは？

古事記などの物語を縁に、出雲市、新潟県糸魚川市、長野県諏訪市の3市で広域的な地域間連携を行う団体です。

3市(出雲市、糸魚川市、諏訪市)には どんなつながりがあるの？

古事記やささまざまな文献によると、おおくにぬしのおおかみ大国主大神がこしのくに高志国(現在の北陸地方)の沼河に住む「ぬなかわ奴奈川姫」を妻にしようと高志国へ行き、奴奈川姫の家の外から求婚の歌を詠んだ。奴奈川姫はそれに応じる歌を返し、翌日の夜、二神は結婚したとされています。

そして、たけみ なかたのかみ大国主大神と奴奈川姫との間に生まれた子が「ひすい建御名方神」で、諏訪大社の祭神になったといわれています。

また、出雲大社に保管されている真名井遺跡から出土した最高品質の「ひすい翡翠の勾玉」は、現在の糸魚川産のものであると言われていたことから、古くから北陸地方と交流があったと考えられます。



関係する 市・祭神・神社

島根県出雲市

・大国主大神 ・出雲大社

長野県諏訪市

・建御名方神 ・諏訪大社

新潟県糸魚川市

・奴奈川姫 ・奴奈川神社

具体的にどんな交流を行うの？

「神話の縁結び かみがたりネットワーク」の設立総会が昨年7月6日、糸魚川市において開催されました。当日は、設立総会のほか、一般公開による調印式と記念講演会が行われ、約200人の参加がありました。

なお、3市の間では、かわさきひかり日本画家である川崎日香渥さん(新潟県上越市在住)の神話をテーマとした日本画が各市の神社へ奉納されたことを契機に、民間での地域間交流が先行して行われています。



調印式で握手する3市長
(中央:糸魚川市長、右:諏訪市長)

今後は新たに開設したホームページでの情報発信や、官民一体となった交流事業を通じて、この物語の認知度向上を図り、交流人口の拡大をめざしていきます。

〈取り組みの一例〉

■パンフレットの発行

3市共通のパンフレットを製作しました。
観光課窓口(市役所4階)等へ設置しています。

■オリジナル切手の販売

ネットワーク設立のきっかけとなった川崎日香渥さんの日本画記念切手10作品を採用した切手シートを市内郵便局で4月10日(金)から販売しています。

おたずね/観光課 ☎21-6588
神話の縁結びかみがたりネットワークホームページ
<https://kamigatarinetwork.jp>



OH!

地産地消コーナー まいがな出雲!

Vol.37 もうすぐデラウェアの季節です

地元でとれる食材のおいしさを再発見してもらい、積極的に消費してもらいたい! 地元食材や生産者に親しみをもってもらい、地域への愛着を深めてもらいたい! との思いで、いろいろなお情報をお届けします。

今月の担当 農業振興課 ☎21-6557

出雲市にはたくさんの特産品がありますが、中でも多く栽培されているのが「デラウェア」です。大社町を中心に、平田地域や斐川地域でも栽培されています。

4月22日に初出荷があり、これから最盛期を迎えます。

JAしまね出雲ぶどう部会 ～もっと恋しよ♡縁むすぶどうプロジェクト～

出雲市でのぶどうの栽培は、昭和11年ごろから大社地区を中心に始まり、最も多い時は年間約3,900トンの生産量がありました。しかし、近年は生産者や栽培面積が減少し、生産量も減少してきています。そこで、JAしまね出雲ぶどう部会では、平成30年から「どげでも守ろう出雲ぶどう!」をスローガンに掲げ、生産者数の維持や新規就農者の確保、栽培面積の維持など、産地としてめざす姿を生産者が共有し、さまざまな活動を行っています。

販売戦略部門については、生産者の女性や青年部が中心となって取り組んでいます。「丹精込めてつくったおいしいぶどうをたくさんの人に食べてもらいたい」、「出雲がぶどうの産地であることをもっと多くの人に知ってもらいたい」という思いから、「もっと恋しよ♡縁むすぶ



どうプロジェクト」というチームを立ち上げ活動がスタートしました。昨年からの各種イベントへの参加や、SNSの活用、チラシの作成・配付によるPRなどが行われています。今後は、出雲農林高校との共同で加工品開発にも取り組む予定です。このほど、ポスターが完成し、ぶどう集荷所をはじめ、市内各所に掲示されました。

さわやかな甘みとほのかな酸味のデラウェアをご賞味いただき、生産者のみなさんの活動や出雲のぶどうについて、ぜひ知っていただきたいと思えます。

※「恋ぶどう」とは、出雲の縁結びのイメージと甘酸っぱいぶどうのイメージを重ね合わせて作られた言葉です。



出雲で活躍するみなさんをご紹介します!



出雲の産業情報発信サイト「出雲人-IZUMOZINE-(いすもじん)」では、出雲で働く(活躍する)人へのインタビュー記事を通して、「出雲の産業」を全国に発信しています。「モノづくり人、縁づくり人、食づくり人、芸術・文化づくり人」の4つのジャンルごとに紹介するシリーズの最終回となる今回は、「食づくり人」のお二人をご紹介します。



伊藤 恵美さん

～酪農を行う家族とともに
地元を盛り上げるパン屋を～

斐川町出身。高校卒業後、松江市の洋菓子店に就職。その後、パン屋の開業をめざし、パン屋に1年間勤務。結婚後、酪農家の夫と「牧場のパン屋さん カウベル」をオープン。出雲市で米粉を使ったパンづくりを行った先駆者でもある。



土江 徹さん

～昔から親しまれている
和菓子を次世代へ、
そして海外へ～

斐川町出身。高校卒業後、岐阜県にある和菓子店に修業に出る。23歳の時に地元に戻り、実家を継ぐ。TVチャンピオン和菓子職人選手権に出演。2013年、2017年の全国菓子大博覧会の工芸菓子部門で最高賞の「名誉総裁賞」を受賞。

本シリーズでは、出雲で暮らしながら、さまざまな分野で先進的な取組や活動をしているみなさんを掲載してきました。「出雲人-IZUMOZINE-(いすもじん)」では、今回のお二人をはじめ、たくさんの人から、出雲の魅力や移住したきっかけを紹介していただき、仕事に奮闘する様子なども掲載しています。また、これからも随時更新し、「出雲の産業」を全国に発信しますので、皆様の周りに出雲へのUターン、出雲での起業をお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひこのサイトをご紹介ください。

おたすね/産業政策課 ☎21-6549 アクセスはこちらから! [http://izumozine.jp/] 出雲人